

つながり日本一をめざして

～あさなえネットから地域につながる取組～

【光市 浅江中学校区】

地域の概要

浅江地域は、学校と地域が連携して取り組むことが多く、学校、地域が一体化したまちづくりがなされており、教育に熱心な地域です。

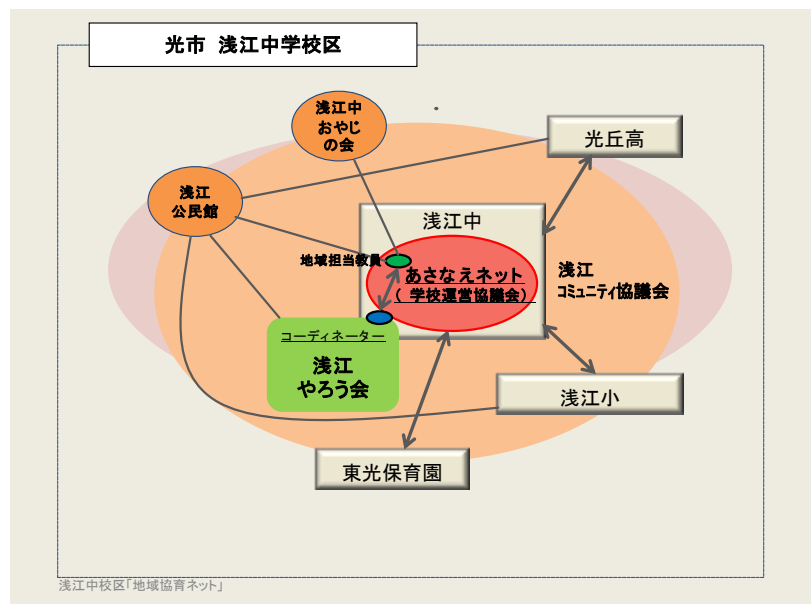
地区内は、1公民館、1小学校、1中学校であり、小中連携や、学社連携が比較的スムーズで、多くの行事を通して密接に「つながる」ことができています。また、地元企業を退職した後、地域リーダーとして精力的に活躍される方が多く、「浅江やろう会」というおやじの会をはじめ、多くの団体が地域行事に自主的にかかわり地域力の向上に努め、それが、地域活性化につながっています。

人口	14,891人	
世帯数	6,439世帯	
対象校及び児童・生徒数	浅江中学校	338人
	浅江小学校	719人

組織の内容

○ これまでの流れ

浅江中学校区における地域協育ネットは、浅江コミュニティ協議会のバックアップのもとで、浅江中コミュニティ・スクール（あさなえネット）を中心として広がっています。浅江中学校は、平成21年度から「コミュニティ・スクール推進事業調査研究校」の文科省指定を受け、推進協議会（準備委員会）や実践校視察、教職員対象の講演会、地域との協議等を経て「あさなえネット」を構築していきました。



○ 組織の特徴

「あさなえネット」の体制は多層構造となっており、学校運営協議会、企画推進委員会、プロジェクト部会の3つの組織から構成されています。「企画推進委員会→学校運営協議会」という構造で、企画推進委員が企画推進委員会でしっかりと案を練って協議会に臨んでいます。

* ステップ形式（以下の順に進めていった。）

- ①学校の分析（学校運営ビジョンの検討会）
- ②課題の抽出（ワークショップで意見交換）
- ③ビジョンの作成（夢を語る会）
- ④組織づくり（編成、役割、運営協議会名称）
- ⑤校内組織の見直し
- ⑥活動の具体的な計画
- ⑦具体的な活動の実践（規約、委員について）

(1) 学校運営協議会

構成員は11名。運営協議会の構成委員は以下のとおりです。各委員の所属等については、「○代表」とし、役職で選んでいないのが特徴です。

学識経験者、PTA代表、浅江コミュニティ協議会代表、浅江公民館代表、浅江地区自治会代表、同窓会代表、地域住民代表、地域企業代表、保護者代表、浅江小学校長、浅江中学校長

(2) **企画推進委員会**

構成員は12名。プロジェクト部会を統括し、学校運営協議会に提案します。
校外委員は6名で、歴代のPTA会長、PTA執行部、前校長など、校内事情をよく理解し、前向きに推進して頂ける方に委嘱しています。

(3) **プロジェクト部会**

構成員は13名。「心の教育部会」「学力向上部会」「体力づくり部会」の3部会から構成され、具体的な事業等を企画立案、実践します。

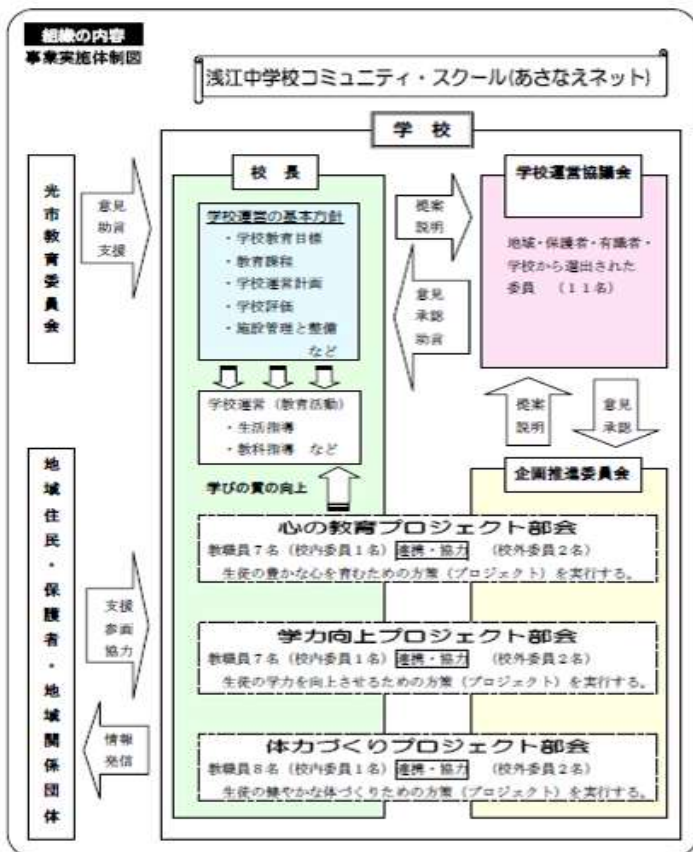
校内研修組織もプロジェクト部会に合わせて、「徳の部会」「知の部会」「体の部会」に再編成し、重ね合わせてプランの運営にかかわります。部会ごとの校内研修も実施し授業研究を進めることで、授業改善が図られています。また、各部会担当を経験豊富な教員と若い教員をペアで担当することで、校内ミドルリーダーの育成にもつながっています。

(4) **コーディネーター**

校外と校内、2名のコーディネーターを配置。各会の開催調整を行っている。校内コーディネーターは、教頭以外の教諭から選出しています。

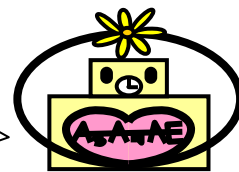
(5) **アドバイザー**

構成員3名（大学准教授、市教委主事）。各会において、専門的な立場からアドバイスや助言を行っています。



○ 成果

生徒考案キャラクター「つながりん」



- ・地域の思いに対して、管理職が学校目標や教育目標とのバランス感覚を大切にしながら活動を精選することで、学校と地域の行事の整合性を図ることができた。
- ・学校と地域の行事調整が図られ、生徒が地域の行事に参加する教育的価値が高まった。
- ・生徒の活動や評価の場面が拡大し、良い刺激になっている。
- ・教員の企画力や調整力など実践的に高める研修の場となっている。
- ・学校への「苦情」から「意見」「提案」「相談」「協力」へと変化してきている。
- ・学校紹介の機会の増加により、保護者や地域の理解と協力が得やすくなっている。
- ・家庭や地域住民のニーズや要望を取り入れることにより教育活動がより充実している。
- ・生徒会の自治的な意識が高まり、生徒会目標の中に、地域とつながる文言が入ったり、「つながり日本一」の小旗が作成されたりするなど、学校と地域との一体感が年々高まってきている。

○ 教育課程との関連について

平成22年度から、8プロジェクトを企画しましたが、プランと教科の整合性を考えた取組や、長期休業等を利用した取組であるため、ほとんどが教育課程外の時間となっています。



学校運営協議会



企画推進委員会



学力向上プロジェクト部会

主な活動の紹介

○ 心の教育プロジェクト部会（生徒の豊かな心を育むためのプロジェクト）



「敬老のついで」
青竹踏みを制作し、メッセージを添えて地域のお年寄りにプレゼントしました。



「ふれあい授業」
いきいきクラブの方たちとグラウンドゴルフを楽しみ、そのあとは教室で、懇話会で大いに盛り上がりました。



「虹ヶ浜海岸整備」
虹ヶ浜の松林の植栽や清掃活動などに多くの生徒が参加しました。

○ 学力向上プロジェクト部会（生徒の学力を向上させるためのプロジェクト）



「サンドアート in 光」
浅江ろう会主催のサンドアート in 光に参加しました。事前に造形専門の講師の方からアドバイスをいただいています。



「あさなえ学習会」
卒業生（高・大学生）や、地域に住む教職経験のある方を講師として迎えた学習会です。夏休み（参加者 75 名）・冬休み（参加者 76 名）に開催されました。



「響け！ 歌声」
地域の方を講師に招き、文化祭合唱コンクールに向けて、専門的な指導を受けました。みるみるうちに歌声が洗練され、文化祭では、素晴らしい歌声が会場に響き渡りました。



○ 体力づくりプロジェクト部会（生徒の健やかな体づくりためのプロジェクト）



「あさなえかけっこクラブ」
毎週水曜日の朝 7:15 から生徒と地域の方が学校に集まり、外周をランニングしながら、交流を深めています。



「小学生の部活動見学」
小学 6 年生を中学校に招き、中学校の部活動を見学します。一足早く中学生生活の雰囲気を感じることができます。



「ふれあい元気マラソン」
公民館主催の「ふれあい元気マラソン」に全校生徒が参加しました。男子は 10 km、女子は 7 km。小学生や、地域の方と一緒に、自分の限界に挑戦しました。

○ その他 地域との関わりを深める取組



全国中学校駅伝大会に出場。大声援が追い風となり、チームは見事 7 位入賞、3 年連続入賞の偉業を成し遂げた。応援団は「つながり日本一」の小旗を手に一生懸命応援しました。



「防災教室 2012 地震だ！みんなで避難 in 浅江小学校」
1 月 17 日「防災とボランティアの日」にちなんで浅江地域の住民の方々 150 名と浅江小 6 年生 108 名で地震を想定した避難訓練、避難所生活体験、炊き出し訓練を、光消防本部や各諸団体と協力して実体験しました。



情報発信

「学校だより」「あさなえネットだより」を地域の全戸に回覧しています。また、ホームページなどを通して情報を発信し、頻繁に更新も行われています。さらに、浅江公民館が発行している「館報あさなえ」に「あさなえネット・コーナー」を設置したり、地方紙に情報を提供して、記事にして掲載してもらったりしています。

このように、積極的に情報発信をしていくことで、地域や保護者に活動状況を報告し、認知度を高めています。

地域の方々の活躍の場が校内で多く設定されていることで、生涯学習や経験の中で培われた得意分野を生徒に還元しています。生徒が地域に出向き、行事への参加やボランティアスタッフとして支援していく体制も定着しており、いわゆる「Win-Win」の関係が構築されています。



光市立浅江中学校
「あさなえネット」だより
第111号 平成23年12月11日 発行

ようやく冬の気配が感じられ、北国からは雪の情報が届くようになりました。保護者の皆様、浅江地域の皆様いかがお過ごしでしょうか。高野などひいておられませんか。

さて、あさなえネットの活動も今年1ヶ月を満了いたしました。3つの部会は諸活動に創意工夫して取り組み、地域との連携・密着を深めてきました。いずれも大きな成果をあげ、子どもたちの育ちと学びの支援につながったものと思われまふ。今後ともよろしくお願ひいたします。

学校評価結果について指導助言をいただきました

10月19日(水)、第3回学校運営協議会が開催され、これまでの活動の成果と課題について話し合うと共に、「前期学校評価結果」について、委員の皆様から指導助言をいただきました。

諸活動については概ね高い評価をいただきました。また、学校評価結果については、全体的には高い評価をいただきましたが、評価が低かったいくつかの項目に対して改善に向けてのアドバイスをいただきました。学識経験者として、企業家として、保護者として、地域住民として、公民館関係者として等々、それぞれのお立場からの建設的な御意見ばかりでした。

学校は、これを受けて、結果とともに改善策などを加えたものを速日保護者の皆様にお届けしたところです。今後とも、よりよい学校運営のため、この学校評価を効果的に活用していきたいと思ひますので御理解のほどよろしくお願ひいたします。

なお、詳細については、浅江中学校ホームページを御覧ください。






学力向上部会の報告 心の教育部会の報告 体力づくり部会の報告 市教委の指導助言

今後の取組

浅江中学校区地域協育ネットをこれからさらに進化させていくためには、現在の取組に対する認知度をしっかり上げていくとともに、学校・家庭・地域の「Win-Win」の関係づくりの確かな構築に向けて、より多くの人々が共有できるように取り組んでいく必要があります。また、これまでの既存の取組を大切に、楽しく、認め合いつつ、肩の力を抜いて、一步一步やれることを整理しながら、継続的な体制づくりを図っていくことが大切です。

現在、浅江校区地域協育ネットの中核的な役割を担っている「浅江やろう会」には、今後も、地域のリーダーとしての活躍と同時に、次世代のリーダーの発掘と、世代間の人づくりや子どもたちの親世代を巻き込んでいくことを期待しています。

平成26年度には、同校区内の浅江小学校もコミュニティ・スクールに指定される予定です。小中連携を強化するなかで、中学校のプロジェクト部会とリンクした活動を設け、一体となった目標や行事を仕組み、一貫性のある取組をしていく構想となっています。

今後、幼児期から中学校を卒業するまでの子どもたちの育ちや学びを継続的に育むために、学校・家庭・地域が連携を深めながら、既存のプロジェクトをさらに発展・充実させ、「つながり日本一の浅江地域」をめざした進化・拡充を図っていきたくて考えています。

